

めざす児童生徒像

チャ【れん】ジ  
【だい】大好き  
【じ】自分達で

チャレンジする子、最後までやり遂げる子  
”大好き”を増やす子(自分を、仲間を、学校を)  
自分達の手で、自分達をより良くしようとする子

※児童生徒結果-教員結果-保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)				
				教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者		
(学校で設定項目)	自己肯定感の向上	めざす児童生徒像 ①～③の平均が90%以上	① ねばり強く挑戦している。	100	87.7	91.3	100	88.7	82.1	目標指標には届かなかったが、運動会や蓮小フェスタなどの異学年交流では、自分の役割を意識し、意欲的に取り組む姿が多く見られた。 ②③については、肯定的な意見が減少している。2学期以降は行事が多くなるため、ふり返り等で児童を価値づける必要があったと考える。	年間を通して、「れん」「だい」「じ」のめあてを意識して、行事等に取り組むことができた。今後もめあてを意識するとともに、行事等の企画や計画、実行を、どこまで児童に委ねるのかを、教師が明確にして取り組むとともに、取り組み後のふり返りの時間の充実を図るようにする。
			② 大好きを増やそうとしている	100	92.6	89.7	100	87.1	82.1		
			③ 自分で判断行動し、自分をよりよくしようとしている	100	91.8	86.3	88.9	89.5	82.1		
			集計								
業務の改善	働き方が時間短縮	①～②の平均が90%以上	① 60時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	87.5			88.9			①学期末の日課を変更することで学級事務の時間を確保したり、企画委員会が職員会議の内容を精選したりすることで短時間の会議につなげることで、目標指標の数値に近づいたと考える。 ②学校組織での役割を明確にし、各分掌で見通しをもって取り組むことで目標指標の数値に近づいたと考える。	今後も会議や会議の内容を精選し、効率的に会議が進められるよう時間を決めて行うようにする。また、行事等のふり返りの仕方やシートを共通したものにすることで、業務の効率化を図るようにする。 ②については分掌部ごとに、誰が、いつ、何をやるのかを明確にし、見通しを持って取り組めるようにする。
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	87.5			88.9				
			集計								
			集計								

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)			達成状況の分析	改善策	
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)					
				教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	学校研究	①②平均が中間85%以上 年度末90%以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	100			100			①年に3回の研究授業と学期に1回の単元デザインシートを基にした公開授業を行うことができた。また、今年度は、単元デザインに評価問題を位置づけることや児童に委ねる場面を設定することを共通実践することができた。 ②研究授業では、抽出児を決めて、その子の言動に注目して授業を見て、授業整理会でねらいが達成できたか、主体的に学ぶことができたか、話し合いの重点にして学ぶことができた。ただ、授業全体を見るのが難しいという意見もある。	①指導案と単元デザインシートの親和性を高めたい。そのために指導案の形式を変更していきたい。また、幅広い年代に対応した研究の取り組みについて考えていきたい。 ②来年度においても、全体研究授業は年間3回にする。しかし、授業整理会の方法に関しては、授業全体を見て討議することができるような方法を考えていく。	
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語り、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100			100					
			集計									
			集計									
	指導力の向上	①②の平均が中間80% 年度末90%	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	100	83.7		-16.3	100	87	-13	①においては、児童の学びに向かう姿勢が向上してきていると感じる。学級経営の基盤ができてきて、学びに向かっている様子が多く見られる。 ②においては、学校研究で重点にして取り組んできたことで、対話を通して協働的に学ぶことができてきている。しかし、全体の場における協働的な学びという点においては、児童同士で話し合う場が少ないように感じる。 ③においては、自分の意見を発表する児童が増えているが、自分の考えを発表するという点においては課題が多い。 ④においては、「聞」という活動に課題が見られる。自分の意見を述べたら、他の人の話を聞いていないという様子や自分の考えに固執して他の人の話を聞き入れないという姿も見られる。	基本的に来年度においても学校研究で児童が主体的に学び、学びを深める授業づくりを推進していく。特に「主体的に学ぶ」ことに重点を置いて、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指していく。そのために、児童に学びを委ねる場面をより多く設定し、児童が全体の場で協働的に学ぶことが出来るように、教師が場の工夫をしたり、コーディネートしたりしていく。 ③と④においては、対話の時間をより授業に活かすことができるように年間計画を考えていく。また、話し合いを続けるスキルや態度についても指導していく。
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	87.5	84.3		-3.2	100	91.1	-8.9		
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	37.5	85.4		47.9	88.9	80.5	-8.4		
			④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じことや違うこと)を受け止めて自分の考えを伝えている。	100	79.5		-20.5	100	81.5	-18.5		
			⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの姿を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	87.5	87.8		0.3	88.9	86.3	-2.6		
			⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	100	94.3		-5.7	88.9	91.1	2.2		
カリキュラム・マネジメント	①②③④の平均が中間85%以上 年度末90%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	100			88.9			①教科横断的な視点を意識して指導することができた。 ②教育課程(運動会、持久走の会など)について反省を行い、次年度に向けて確認することもできた。教育課程を通して、児童に力が付いたかどうかを検証することができなかった。 ③学力向上の取り組みを実践することができている。小松市学力調査結果についても分析を行い実践を続けていく。進小計算検定について声かけをして実施できるようにした。 ④職員会議等で授業する時は、小中連携で出された学力の課題を伝えて、家庭学習や長期休業の課題としてローマ字など実践できた。	①来年度に引き継ぐことができるように、カリキュラムマップに書き加えていく。 ②教育課程について反省をする際、学校教育目標について児童に力が付いているかを確認して、年度末に全職員で児童理解を行い検証する。 ③進小計算検定について週歴に記載し、確実に取り組むことができるようにする。 ④これからも小中連携で話し合われたことを基に、学力についての課題を共有し、実践を提案していく。		
		② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	87.5			88.9						
		③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100			88.9						
		④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	87.5			88.9						
家庭学習	①②の平均が中間80%以上 年度末90%以上	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	100	83.1		-16.9	88.9	83.5	-5.4	①家庭学習強化週間の取り組みを職員会議で提案し、自学シート紹介の取り組みなどを通して共通理解を図った。長期休業には、すべての学年でどのような課題をだしているか共有できるようにして、課題の進捗について大きく差が出なかった。他の学年でどのように工夫して取り組んでいるかよくわからなかった。 ②家庭学習強化週間の後のタイピング検定を行うことや、週歴にも記して学習用端末の持ち帰りを推進した。		
		② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	75	75.1		0.1	77.8	75.3	-2.5			
		集計										